しず老施協

No. 40

平成26年７月 発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856　静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館内

TEL.054-653-2311 FAX.054-653-2312
E-mail:sizurosi@vesta.ocn.ne.jp
http://www.shizu-roshikyo.jp/

巻頭言

会長としての抱負

老施協の相互連携と在宅委員会の強化と後継者養成を――

静岡県老人福祉施設協議会
会長　石　川　三　義

これまでの３期、会長として県内の会員施設の連携強化により諸課題に取り組んできました。介護職員等の実践研究発表の場としての「静岡県高齢者福祉研究大会」の実施、「介護の日」の県民への啓発活動、県老施協の組織改革と特養部会等の会費徴収の停止による経費節減、介護職のイメージアップを図る県主催の介護フェア及び地域介護力向上促進事業への協力・参加、災害時の各施設間の相互支援協定の締結など、会員の協力により様々な取り組をさせていただきましたことを改めて感謝いたします。

再び平成26年から２年間引き続き静岡県老人福祉施設協議会の会長を務めさせて頂くことになりました。微力ではありますが、県老施協の健全な発展と高齢者福祉・介護の向上のために全力で努力していく所存でありますので、会員の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いします。

私たち県老施協は、東日本の大震災の教訓を踏まえて、平成25年３月に災害時における県内老施協の会員相互の支援協定を締結しました。これは全国でも初めての試みでしたが、ただ、協定締結で終わりではなく、出来れば東部・中部・西部のブロックごとに定期的に毎年協定内容を確認し、緊急時に備えての相互連携と情報の共有化を図っていただくことが大切であると考えます。

最近、地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護保険上の在宅事業や高齢者住宅の分野にドラックストアーや鉄道・ホテル関係の企業などの異業種が相次いで参入し、民間企業との競争が激化しています。私たち老施協の会員である施設・法人も、高齢者福祉施設以外に多くの在宅福祉事業を経営していますが、在宅部門が抱えている課題・問題をトータルに一元的に取り扱っていないのが現状です。在宅委員会には、従来のデイ協の枠を超えて、老施協の会員が実施している全ての在宅福祉事業（ショートステイ、デイサービス、ホームヘルパー、ケアマネ事業所、小規模多機能居宅介護事業、グループホーム、地域包括支援センターなど）の課題をトータルに議論していただき、民間事業者との競争にも負けない対応策を検討していただきたい。老施協としては、特に21世紀委員会を中心にして、各法人・施設を担う後継者を養成するためのプログラムを確立し、次世代を育てなければならないと考えます。また私たちは、今後も会員施設の連携強化を図りながら、介護人材確保･育成への取り組みを始め、キャリアパス制度の導入や地域包括ケアシステムへの参入、社会福祉法人の地域社会貢献活動の展開、科学的介護、認知症介護、平穏死などの看取り介護に積極的に取り組んでいかなければないと考えています。

最後に、平成27年度から介護保険制度が大幅に改正されますが、県老施協としては、今後も時代・社会の変化やニーズに機敏に対応し、諸課題に迅速に対処していきますので、会員の皆様をはじめ行政機関及び各種関係団体のご理解とご支援を切にお願い申し上げる次第です。

（特別養護老人ホーム「あしたかホーム」施設長）

特集

地域包括ケアシステムとは

特別養護老人ホーム　高原荘
施設長　斉　藤　文　彦

2025年の高齢社会を踏まえると、高齢者ケアのニーズの増大、単独世帯の増大、認知症を有する者の増加を背景として、介護保険サービス、医療保険サービスのみならず、見守りなどの様々な生活支援や成年後見等の権利擁護、住居の保障、低所得者への支援など様々な支援が切れ目なく提供されなければならないが、各々の提供システムは分断され、有機的な連携が見られない。地域において包括的、継続的につないでいく仕組み「地域包括ケアシステム」が必要になる。

地域包括ケアシステムの姿

(1) 自宅から30分以内（日常生活圏域・中学校区）に安全・安心・健康を確保するための多様なサービスを24時間365日確保できる。

(2)「自助・互助・共助・公助」の役割分担の明確化、特に介護保険などのフォーマルケアサービスへの依存は地域による互助システムを衰退させる危険性がある。

(3) 在宅サービスの基軸は、短時間巡回型の訪問介護、訪問看護チーム編成による訪問サービスが中心になり、24時間365日担当地域を巡回、夜間は緊急時対応を行う。

(4) サービスを利用者の状態像に応じて組み合わせて柔軟に提供する複合事業所は報酬上も包括払いとなり、経済的な負担の面が施設と変わらなくなる。

(5) 高齢期の住み続けることが可能な住宅が整備され、その時々の状態の変化に応じて、必要かつ適切なケアを効率的に組み合わせてサービスが外付けで提供される。

(6) 施設は「ケアが組み合わされた集合住宅」として位置づけられ、医療、看護、介護サービスは原則として外部の事業所から外付けで提供されるのではないか。

(7) 都道府県、市町村は地域の自主性や主体性に基づき独自の基準・報酬設定を行い、サービス基盤や人材の確保を図っている。

これからの考え方　－５つの「安心」と「交流」－

住居の安心　車椅子を使用するようになっても外出することがができるよう、住宅内及び屋外空間のバリアフリー化を確保。

見守りの安心　一人暮らしや高齢夫婦のみの世帯を念頭に置いて、緊急時にはスタッフが速やかに駆けつけられる体制を確保するとともに、住民相互で助け合い、地域で孤立せず、安心して生活できるような環境を確保。

食事の安心　自ら調理することが困難な高齢者を念頭において、配食サービスや家庭料理を手頃な価格で食べられる食堂などを確保。

医療の安心　24時間体制で在宅医療（往診・訪問看護等）の提供が可能となるよう、在宅療養支援診療所や訪問看護ステーションを整備。

介護の安心　「小規模多機能型居宅介護」を始め、様々なサービス拠点を整備することにより、365日体制で在宅介護を支援。併せて、在宅生活が困難となった場合のために、住み慣れた地域の中に入居、居住系施設を確保。

交　　流　団塊世代の地域での活躍、高齢者の介護予防、子育て支援、障害者の地域生活支援など多様な交流を図る中で、多世代によるコミュニティー形成を推進。

社会福祉法人が今後、地域といかに関わり、地域コミュニティーを推進した取り組みができるのかが期待されるところではないか。

（2010年に宮島渡氏講演会より）

第６回　静岡県高齢者福祉研究大会開催案内

～未来へつなぐ　静岡の介護力～

●期　日　　平成26年８月８日（金）　午前10時～午後４時20分

●会　場　　総合コンベンション施設「プラサ　ベルデ」　１階、３階、４階

ＪＲ沼津駅北口より徒歩３分

●日　程

9:00　9:30　10:00→11:10 11:20 → 12:40　13:30　→　14:50 15:00 → 16:20

発表受付	参加受付	開会式講　演		研究発表	昼食休憩	研究発表	休憩	研究発表

●内　容　　研究発表、講演会、図書販売コーナー

＜講演会＞

講　　師　　静岡文化芸術大学　学長　熊倉　功夫　氏

演　　題　　「素晴らしい和食文化」

＜研究発表＞

発表題数　　72題　　６会場に分かれて発表

①　静岡県内の老人福祉施設の職員

②　大学・専門学校等の学生・教諭

③　一般市民

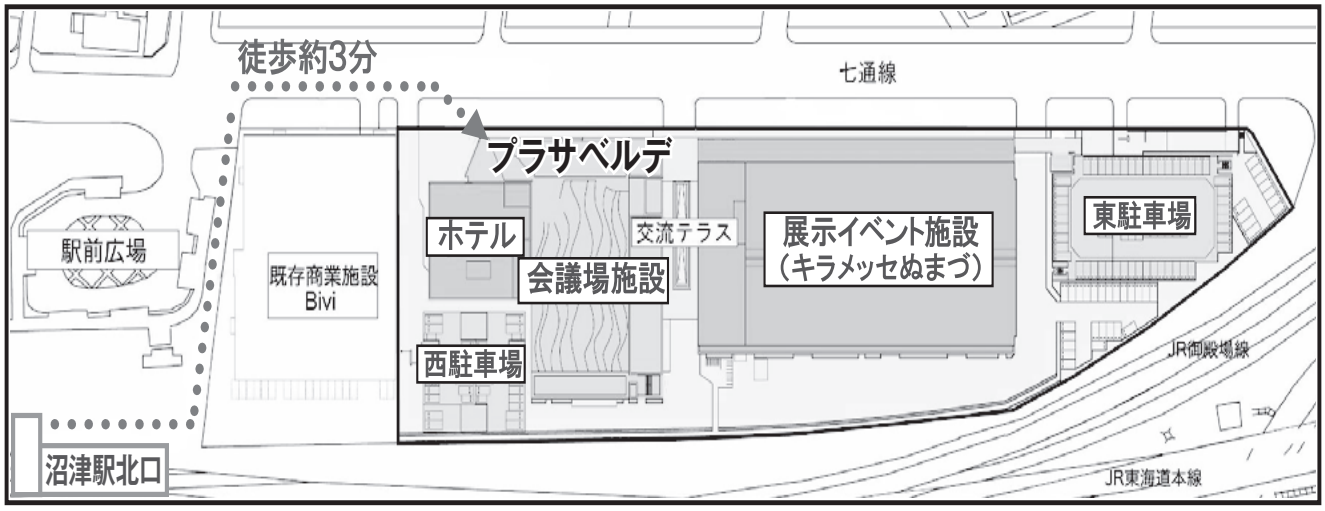
●主　催　　静岡県老人福祉施設協議会

●後　援　　静岡県、静岡県社会福祉協議会

静岡県介護福祉士会、静岡県社会福祉士会

静岡県介護支援専門員協会

静岡県地域包括・在宅介護支援センター協議会

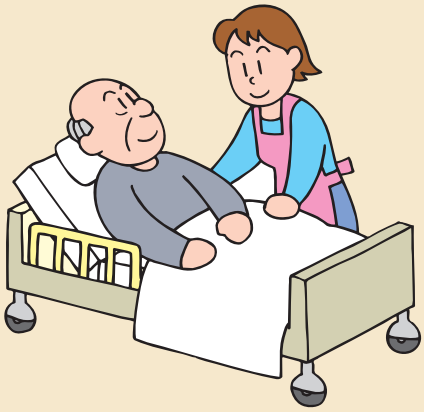


シリーズリレーコラム

ー高品質介護ー

特別養護老人ホーム山崎園
施設長　竹　村　信　治

1947年（昭和22年）～1949年（昭和24年）第二次世界大戦直後において、第一次ベビービームで生まれた人たちのことを団塊の世代と呼んでいます。この団塊の世代の人たちが75歳になる2025年にあと10年余りと迫ってまいりました。今後、高齢者人口が全人口に占める割合は、2025年で75歳以上高齢者が18％を超え、2055年には26％を超えて高齢者人口がピークを迎えるといわれています。そのことは、単身高齢世帯や高齢夫婦のみの世帯が増加していくこととなります。また、都市部での高齢者人口は、地方をはるかに凌ぐ勢いで増加の一途を辿っていくと考えられます。労働力人口が減少する「超高齢国家」にあって、介護ニーズを支える人材を質量ともに確保していくことは、将来に渡り持続可能な我国の社会保障制度を確立するためにも大きな課題です。介護施設では、５割以上もの施設が「職員不足を感じる」とする調査結果が出ており、高品質なサービスを提供するための「高品質介護」が熱望されています。現在においては、介護現場の職員不足に限らず、いろいろな分野で人手不足といわれています。長い年月をかけて培った職人さんと呼ばれている人たちも不足しています。建設工事現場においても、３月は年度末で工事を仕上げる公共工事が多いため、腕のいい職人さんの奪い合いがあるようです。腕のいい職人さんは簡単に育成できません。長い年月を経て、腕を磨いて職人と呼ばれるようになります。介護の現場においては、職人と呼びませんが知識と経験を積み重ねて介護の現場を強いものにしていくのが介護職員です。「継続は力なり」と言いますが、力ある職人さんが長い年月をかけて造った建造物は後世の人たちに感銘を与えてくれます。私たちは物を造る仕事ではありませんが、人々に感銘を与えることができます。介護においても「高品質人材」を育てあげなければなりません。



施設名称の由来と想い

「ラポーレ駿河」

ケアハウス　ラポーレ駿河
施設長　玉　田　直　文

西部の施設長さんから電話あり、オペラ歌手のような低音で「カタカナ名の施設を探して居たらラポーレがカタカナなので施設の由来を県老施協に寄稿してほしい」そんな依頼であった。

耳に爽やかな声に、つい「はい」と返事をしてしまった次第です。

20年も前の話ですが、設計、建設、開設とずっとかかわってきたので、名前についてはそれなりの理由があり紹介します。

まず、ラポーレ駿河を開設するにあたり、設計事務所と設計コンセプトについて長時間に亘り話し合いを行ない、「ひとつの屋根の下で『真の自立生活』を支える」これを基本コンセプトとしました。

ケアハウスの基本サービスである、食事と入浴は本来の生活では、プライベート領域であるが故に個の生活に即した段階的な領域で「つなぐ」事は自立生活の質的向上に必要である。

と、言うことで４つのゾーン

プライベート
　（部屋）…生活の自立化
セミプライベート
　（浴室・食堂）…生活の質的向上
セミパブリック
　（ラウンヂ・和室）…生活の満足感向上
パブリック
　（カルチャールーム）…生活の惰性化に対する活性化

を設置することにしました。

また、裏動線として、エレベーターから浴室～食堂への通りを造り「道空間を演出」し、井戸端会議、助け合いなどの交流が自然に出来るようにしました。

そして、ケアハウスの部屋を「家」と捉え、部屋以外を土間とすることは履物の履き替えによる生活の切り替えになるばかりでなく、ケアハウス生活の中に社会性の認識にも繋がり、生活の主体は自己であるという「心」の自立をはぐくむことが大切であるという結論になりました。

個の尊重は個の防御の追求ではなく、個と個のコミュニケーションの活発化によって生じる「なじみの人間関係」の創造にある～このような設計コンセプトから「なじみ＝ラポーレ」という名前を付けました。

「なじみ」とは「ラポール」という英語もありましたが、ルの表現が耳にスッキリ来ない気がしてフランス語で表現したらと考え「ラポーレ」としました。

ラポーレの入居者さん達70名は「なじみの人間関係の中に自立生活も取り込み」日々楽しい生活を送られています。

●施設のユニーク行事●

～プレーゲあしたか内企業内託児所「ぽっぽ」発～

『お年寄りとの日々の交流を楽しんでいます!!』

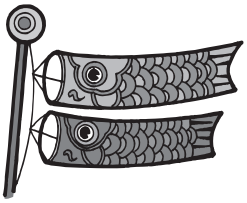
社会福祉法人春風会
法人本部事務局次長　小　野　博　信

わたしたちは、今年度新設された『プレーゲあしたか』内にある企業内託児所「ぽっぽ」です。職員のお子さんを対象に０歳から３歳までのお子さんを３人の保育士で保育しています。現在３名のお子さんが「ぽっぽ」を利用しています。特別養護老人ホーム内の託児所という特色を生かし、日々の保育の中で、『あしたかホーム』や『プレーゲあしたか』を利用してくださる方の所へ遊びに行かせていただき、握手をしたり、一緒に歌を歌ったりして触れ合いを楽しんでいます。

開所の頃は、挨拶も出来ずに部屋に戻りたがっていた子どもたちですが、今は利用者さんとの触れ合いも楽しめるようになってきました。そこで、今月の行事といったら「子どもの日」。これまで以上の関わりを楽しめるように、子どもたちは、兜をかぶり、自分で新聞を丸めて作った剣を持って利用者さんの所へ遊びに行かせてもらいました。また、利用者さんには、子どもが来たらお菓子を渡してもらうようにお願いしました。

子どもたちは、初めは、剣を持ち勢いよく利用者さんのいるお部屋へ入っていきましたが、利用者さんの優しい声かけやしぐさに剣を保育士に渡し、急いで利用者さんの側に近寄りお菓子を嬉しそうにもらっていました。利用者の皆さんも子どもたちの普段とは違う姿にとても喜んでくださり、いろいろなお話をしてくださいました。しかし、そこにいる職員には、容赦なく剣をふりがさし、降参しても納得するまで戦っていました。お礼に、みんなで“こいのぼり”の歌を歌いました。利用者の皆さんもこいのぼりの歌を一緒に歌って楽しいひと時を過ごしました。

今後も利用者さんとの関わりを楽しみながら、納涼祭やハロウィンパーティーなど共に参加できる行事を計画していきたいと思います。



活動報告

【老施協】

★総会　26年３月20日
26年度事業計画、一般会計収支予算書について審議

★総会　26年５月22日
25年度事業報告、一般会計収支決算書について審議

★理事会　26年３月７日
定例総会提出議案等の協議

★理事会　26年５月９日
25年度事業報告・一般会計収支決算所について審議

【企画経営委員会】

★26年４月16日
26年度の活動計画、県との懇談会、調査･研究テーマ等

【研修委員会】

★25年11月25～26日
県外視察研修

★26年１月10日
介護力向上研修～食に関する研修～

★26年２月25日
介護力向上研修～排泄自立の理論と実践から自立支援践から自立支援介護を考える～

★26年３月20日
防災･危機管理研修～第４次地震被害想定を受けて、今なすべきこと～

★26年４月17日
26年度研修計画

【21世紀委員会】

★25年12月３日
会長講話・意見交換、今後の活動計画

★26年２月27・28日
パワーポイント研修

★26年４月23日
26年度の取り組み

★26年５月８日
第6回研究大会への取り組み、施設間職員交流研修、接遇マナー研修について

【高齢者福祉研究大会実行委員会】

★25年11月20日
第５回研究大会開催状況

★26年２月６日
第６回研究大会実施計画

★26年４月23日
第６回研究大会について

★26年５月21日
第６回研究大会参加募集結果について
会場視察日程（7/9）、大会当日の運営について

【養護委員会】

★25年11月７日
県との懇談会報告

★26年２月７日
26年度事業計画について

★26年４月17日
26年度事業（研修）計画について

【特養委員会】

★25年11月５日
地域密着方サービスの事業展開に関する研修

★26年２月７日
リスクマネージメント研修

★26年４月17日
26年度事業（研修・調査）計画について

【在宅委員会】

★26年４月16日
26年度の取り組みについて

編集後記

暑い夏が今年もやってきた。施設は、感染症対策の次に熱中症対策等と心配や不安が絶えません。４月からの消費税増税に加え電気料金、ガソリンの高騰、また、人件費の増嵩などに反比例して介護報酬の引き下げです。この情勢下で第三の矢は放されたのか？脱原発で高価格の火力発電燃料の輸入、それに伴う貿易赤字の膨らみ、そして株価が下落し金利が上昇、国債の信用性がなくなり1,000兆円の借金はどこへ行くのか。せめて涼しい夏を利用者に。（平野）

浜名湖花博が終わった。いろいろな花壇に心が洗われた。施設でも、遠足で行った。幾何学模様のかっちり植えてある花壇もいいが、結構アバウトに見える寄せ植え風の花壇がうちの入園者の皆さんには人気だった。遠足から帰ってきて、花博に感動した入園者の有志の皆さんが荒れ放題だった施設の花壇の整備にかかってくれた。いつの日か花博で見た寄せ植え風の花壇ができればいいな・・（三輪）

新加入施設紹介

平成26年７月現在

特別養護老人ホーム

浜松中央長上苑

法 人 名　社会福祉法人　七恵会
開 設 日　平成26年４月１日
（入会申込　平成26年４月１日）
施 設 長　増田　公基
所 在 地　浜松市中区中島二丁目７番１号
入所定員　90名　　短期　10人

特別養護老人ホーム

プレーゲあしたか

法 人 名　社会福祉法人　春風会
開 設 日　平成26年４月１日
（入会申込　平成26年４月１日）
施 設 長　石川　三義
所 在 地　沼津市東椎路1639－1
入所定員　29名

特別養護老人ホーム

富岳ダイヤモンドライフすその

法 人 名　社会福祉法人　富岳会
開 設 日　平成26年４月１日
（入会申込　平成26年４月１日）
施 設 長　菅沼　章
所 在 地　裾野市須山字大野2924
入所定員　100名
デイサービス　12名

ケアハウス

富岳エメラルドパレス

法 人 名　社会福祉法人　富岳会
開 設 日　平成26年４月１日
（入会申込　平成26年４月１日）
施 設 長　菅沼　章
所 在 地　裾野市須山字大野2924
入所定員　30名
短　　期　20名

（お詫び）　４月以降の新規加入施設、「かたくら明和園」「天城デイサービスセンター」「ふれあいデイサービスセンター」「はらデイサービスセンター」「袋井ゆうあいの里」につきましては、紙面の都合上、次号以降に掲載させて頂きます。